



TITLE:

京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 No. 15

AUTHOR(S):

CITATION:

京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 No. 15. 京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 1953, 15: 47-51

ISSUE DATE:

1953-12-04

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/186867>

RIGHT:

京都大学瀬戸臨海実験所振興会

水族館月報

No. 15

1953. 11月(12月号)

10月中停止されていた京阪神地方諸学校の白浜向修学旅行及び、各種団体旅行が、この11月に実施されたので、水族館もかなりの雑踏を見せていたが、月末が近づくに従い、年末の静けさが深い始めて来た。3日文化入日の行事として、窓口に於ける売上金の金額を和歌山縣下の被水害小学校の中のある1校に届けて貰ふべく縣教育委員会に寄附の手続をとった。金額は水族館の分が10,577.50、彦根山植物園の分が6,228.50、計16,806.00で、学校は最も不便な地にある僻地校を選び、例えば圖書購入など総たの事に使用して貰いたいと希望を附しておいた。今後毎年不便な地にある学校に対して、1校宛逐次寄附を続けて行きたい。実は、昨年の数字から推して、更に多額を期待していたのであったが、本年は近郊一帯に、文化的行事が催されたため、意外にこの日の客足が少かった。

今年は水候に於ても、昨年に比べて冬の訪れが約半月位早いように思われる。アカウミガメの新しい子供を越冬させて適当数の2年生を育てるために、またアカウミガメを無事に越冬させるために No. 22号水槽に加熱ヒーター3個(動力線)を設置して、越冬魚類をこゝに集め、昨年からの装置があるNo. 20号水槽には、小型の熱帯魚を入れてみる事にした。こゝまでやってみている中には、必ずうまく運轉されるようになるであろう。なおNo. 22号水槽のヒーターには嚴重なアースを付け、更にカーブアース線に故障があった際の危険予防と、稚魚の盗難を防ぐため、水槽の周囲に金網を張りめぐらした。No. 20号水槽は、24日より保温開始、No. 22号水槽は26日試験してみた結果、ほとんどの立つ見通しを得たので、30日 魚類をこゝに集め、No. 22中の魚類は、No. 20号水槽に移し入れた。このようにしても、中型以上の熱帯性魚類を越冬させる事は不可能で、現在すでにツバメウオ(16日入れて28日に死亡)、イトヒキアジ(30日)は死亡し、ミノカサゴも弱り気味、モンガラカワハギ、アミモンガラは岩に体をよせかけたまま、すっかりすくんでしまつて動こうとしない。大作今年、11月頃よりこれらの熱帯魚類が不活発になって来た。今一つ困った事は、ウニ類の補充が困難になつた事である。再三の申入れにも拘らず、ウニ会社の徹底的採集は続いており、現在こゝにガンガゼは容易に採集する事が出来なくなつた。

19日、ベニオキナエビス等の美しい貝類を博物館に陳列するための購入した。また日没が早くなり、室内が暗くなってお客が困るので、21日室内にふすの蛍光灯を設置した。最近博物館の入場者は極めて多く、特に学校の修学旅行団からは喜ばれている。何とかして、この建物に手を入れて貰つて、今一室を公開できるようにしたいものである。

先月から、明光バスとの連帯切符が実施されているため、水族館出口の番人の必要が事実上なくなつてしまつた。そこで彦根山植物園よりの申入れにより、番人の左隣にいる娘を彦根山の管理に移す事にした。この際、(1) 月給を解職しない。(2) 月給を下げない。(3) 月給は水族館と植物園の連絡、博物館前広場の清掃、水族館の見物の際には、この広場と

て職務に従事する。……英を申入れ、承諾を得た。

北海岸護岸工事の破損箇所が、いち早く縣当局の手により、修復された事に対しては、心よりの謝意を榮じ得ない。南海岸舟揚場にそびえていた老松は、シロアリとマツクイムシのための伐採する事に決っていたが、遂に17日夕刻、300年の齡を太い幹の断面に示して、倒されてしまった。長い間、その下で育ちた草々を、よきにつけ、悪いにつけて見守っていたであろう枝々が、はらい落され、やがて裸になった巨幹が、地ひびきをたて、大地をおった瞬間には、古き偉大なるものに対する哀惜の念と、高くかなでられていた松籟を耳から失い、目からは視野の広いノ部分を、取除かれた寂寥感とに、思はず、兩手を組まずにはおられなかった。今後は、残る若木共が無事に、夫々大樹になるように保護したいものである。

② 11月の入場者数

水族館発売切符数

大人 5399

小人 326

団体 13742

明光バス発売切符数

大人 10533

小人 119

無料入場者 71 (累計 1026)

③ 11月の収入

(累計)

観覧券売上金 487,629.00 2,587,186.00

雑収入 320.00 88,638.00

10月1日の繰越し 86,710.50

計 574,659.50

④ 11月の支出

一般経費

| 費目別 | 金額 | 累計 | 備考 |
|-------|------------|------------|----|
| 人件費 | 47,300.00 | 395,748.00 | |
| 光熱費 | 7,110.00 | 56,994.00 | |
| 消耗品費 | 3,915.00 | 25,545.00 | |
| 備品費 | — | 15,045.00 | |
| 修理費 | 17,668.00 | 129,274.00 | |
| 材料費 | 12,160.00 | 91,515.00 | |
| 学生費 | 890.00 | 3,800.00 | |
| 旅費 | 120.00 | 470.00 | |
| 諸税公課 | — | 48,043.00 | |
| 租費 | 11,037.50 | 13,292.50 | |
| 通信運搬費 | 1,544.00 | 12,898.50 | |
| 契約金 | — | 165,300.00 | |
| 合計 | 101,144.50 | 958,225.00 | |

水族館設備改善費

| 項 目 | 金 額 | 累 計 | 備 考 |
|-------------|-----------|------------|-----|
| 便所建築費 | — | 10,450.00 | |
| 電話室設備 | — | 3,565.00 | |
| 花壇設置 | — | 6,460.00 | |
| 遊歩道舗装費 | — | 36,575.00 | |
| オサクメ標費 | — | 40,000.00 | |
| 標標設置費 | — | 21,500.00 | |
| 標標設置費 | — | 13,160.00 | |
| 之礼ベンチ | 1,200.00 | 8,900.00 | |
| No.22水槽標設置費 | 49,838.00 | 49,838.00 | |
| 合 計 | 51,038.00 | 350,428.00 | |

実験所改善費

| 費 目 別 | 金 額 | 累 計 | 備 考 |
|-------|------------|------------|------------|
| 人件費 | 3,966.00 | 34,994.00 | 1/会費額 研究補助 |
| 印刷費 | 50,000.00 | 300,000.00 | |
| 備品費 | 50,000.00 | 173,100.00 | |
| 設備修理費 | 320.00 | 83,887.00 | |
| 特別費 | 50,000.00 | 50,000.00 | |
| 合 計 | 154,286.00 | 141,981.00 | |

博物館費

| 費 目 別 | 金 額 | 累 計 | 備 考 |
|-------|-----------|-----------|-----|
| 人件費 | 6,300.00 | 45,125.00 | |
| 備品費 | 5,700.00 | 34,643.00 | |
| 修理費 | 160.00 | 6,883.00 | |
| 消耗品費 | — | 2,611.00 | |
| 旅 費 | — | 240.00 | |
| 通信運搬費 | — | 40.00 | |
| 合 計 | 12,160.00 | 89,542.00 | |

積立金

| 費 目 別 | 金 額 | 引 出 高 | 現 在 高 | 備 考 |
|----------|-----------|-------|------------|---------|
| ベースアップ資金 | 7,000.00 | | 79,000.00 | |
| 賞与資金 | 7,000.00 | | 79,000.00 | |
| 厚生資金 | 1,500.00 | | 10,150.00 | |
| 災害時予備金 | — | | 81,326.50 | 貸付金の返済分 |
| 会議費積立金 | — | | 40,000.00 | 貸付金の返済分 |
| 水族館運営用金 | — | | — | |
| 特別予備金 | 51,200.00 | | 199,690.00 | |
| 合 計 | 26,700.00 | | 489,166.50 | |

支出合計

| | |
|--------------------|------------|
| 一般経費 | 101,144.50 |
| 水族館設備改善費 | 51,038.00 |
| 実験所改善費 | 154,286.00 |
| 障物飲費 | 12,160.00 |
| 積立金 | 96,700.00 |
| 借入金返済(災害時予備金, 会議費) | 106,000.00 |

計 521,328.50

12月に繰越(53,331.00

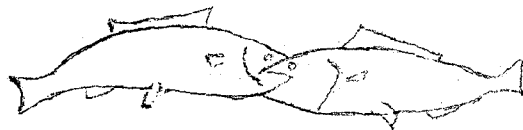
◎11月の気象

| | 上旬 | 中旬 | 下旬 |
|----------|---------------------|---------------------|---------------------|
| 晴天日数(17) | 4 | 6 | 7 |
| 気温 | 21.9 — 16.0 18.0 | 17.0 — 11.9 14.6 | 14.7 — 11.4 13.2 |
| 水温 | 22.1 — 19.2 20.5 | 19.3 — 17.4 18.4 | 17.8 — 15.0 16.9 |

◎11月の魚

冒頭に、かぎりの魚談を記しておいたが、更に次の事項を書き残しておく。

- (1) 1日 No. 22 水槽で約40匹の魚類を全滅させた。これは アオウミガメ 及び タイマイ のいる水槽に導入した魚類を、撲滅することなしに入れてしまった事に基づく事故である。即ち、入れた魚の中、弱っているもの数匹が、まず先に喰われて水が汚れ、水の汚れが原因となって更に弱っている魚が死に、それを亀が喰って更に水を汚すと言う過程が連つて行くのである。このような事故は、以前にも経験があったのであるが、今回で原因が明瞭となり、今後の重大な教訓となった。この時に ゴバンサメ も死にってしまった。
- (2) フエの喧嘩。今迄入しきに居って仲良く泳いでいた No. 12 号水槽中の2匹のフエが、事もあろうに 3日文化の日に、大喧嘩の咬み合いを始めた。



圖のように咬合つて、引分けても引分けても、頭を傷だらけにして咬合を続けるので、遂に予備水槽に分離收容した。1匹は片眼が潰れて了った。やがて傷癒えたものを30日に広々 No. 24 水槽に移したが、喧嘩は止めているようである。

- (3) 大ダコ。15日ノ賞200匹のマダコが No. 8 水槽に入つたが、やがて自分の足を喰いはじめ、28日死亡した。
- (4) ノギリガザミ。24日雌雄が No. 15 水槽に入つた。
- (5) 是地悪イシダイ。イシダイのいる No. 35 水槽に10月22日、イシガキダイを入れたが、始めからいるイシダイは、この新入者

が余秘お嫌いと見えて、いつかな別染うとせず、インガキダイを水槽の弁満にすくませた上で、一すでも、インガキダイが泳ぎ出すとすぐにこれに乗りかかって、固いや吻で突きのついて行く。遂に30日に至り、インガキダイはすっかり白化し類えの状態になったので、予備水槽に隔離した。根が丈夫な奥であるので、その後経過は良いようである。

1952年度との比較

| | 1952 | 1953 |
|-----|------------|------------|
| 入場者 | 10143 | 30119 |
| 売上金 | 332,100.00 | 487,129.00 |
| 支出金 | 318,371.50 | 521,328.50 |

11月の気象

気温は南水槽室

水温はNo.22水槽で10時に測定